

第4回
木にまつわる、
技術・伝統inいわて

「木にまつわる技術・伝統inいわて」第4回は、洋野町（旧大野村）で製炭を行っている 新田徳男^{しんたんとくお}さんを紹介します。

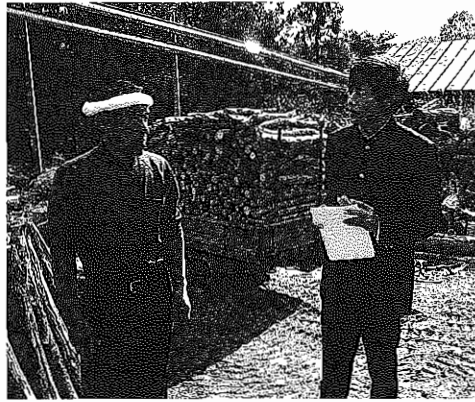


写真1 新田徳男さん（左）

新田さんは、学校を卒業後、北海道で大工仕事を7〜8年、その後は洋野町の実家に戻り農林業を、冬期間は首都圏で土木関係の仕事をしています。実家の農林業では炭焼きも行っていたことから、縁あって平成12年に北部産業株式会社に入社しました。入社直後、自分で4基の

炭窯を築窯し、その後6基の炭窯の窯長となりました。「窯に対して愛情を注ぐ」をモットーとして、丁寧な蒸煮、精錬を行い、製品の品質の向上と安定に心を砕いて生産に取り組んでいます。



写真2 製炭窯

木炭の生産状況は、製炭釜6基で黒炭を年間115t、木酢液6万4千800ℓを生産しており、平成17年度にはチャコールマイスターとして岩手県知事に認定されました。また、木炭品評会では何度も入賞しており、平成20年度には農林水産大臣賞を受賞しています。ただ、ご本人は、「品評会で賞を取って終わりではない。まだまだ先がある。」と話され、「天候にも左右され、焼くたびに違うのが難しいところ。そして、

そこがまた面白いところ。」と、炭作りに関して妥協することなく、自分が納得する品質の木炭を追究して、常に技術の研鑽を怠りません。地域の小・中学生の炭作り体験学習を指導することもありますし、平成24年度には、林野庁主催の森の聞き書き甲子園で、森の名手・名人に選定され、岩手県立盛岡農業高等学校3年生、田村大志（だいし）さんのインタビューに応じ、炭焼きの苦労や楽しさを丁寧に答えています。（写真1）

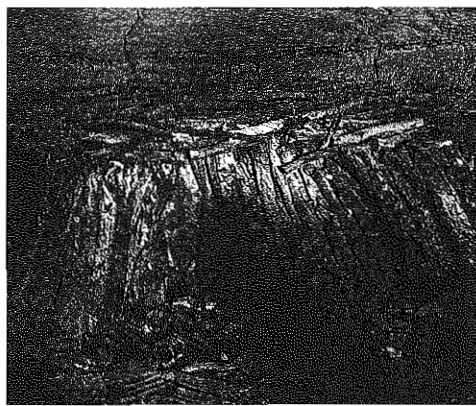


写真3 窯の内部（焼き上がり）

会社では、新規採用者の教育係を担当しており、後継者の育成にも力を注いでいます。現在2人目の新規採用者を教育しながら一緒に働いています。気を付けているのは、けが

をしないことと、火の管理とのことでした。

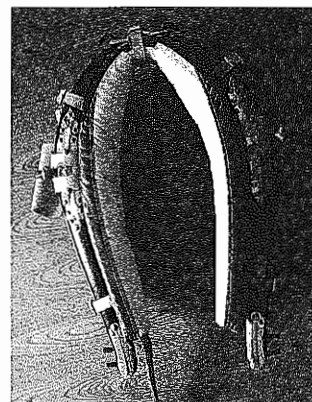


写真4 製作した飾り鞍

多彩な趣味を持つ新田さん、馬やポニーを飼っています。物づくりが大好きで、木や藁で馬の飾り鞍を作成する名人。木の加工から皮を縫う作業まで、自分でやってみよう貴重な技術の持ち主です。



写真5 出荷を待つ製品

今後も、物づくりへのひたむきな情熱で、「日本一の炭の里」の発展に尽力いただけたらと思います。

林業技術センター普及班

019(698)1337